

## 直交変換とその性質

今回：直交行列，直交変換

教科書：pp.118-121 を解説．

前々回：正規直交基底，シュミットの直交化

前回：線形変換，カーネル(核)，イメージ(像)

次回：コンピュータで理解する線形代数

直交行列とは：

『線分の長さや，線分どうしのなす角は変化しない変換』

• 線分の長さが変化しない： $\|Ax\| = \|x\|$

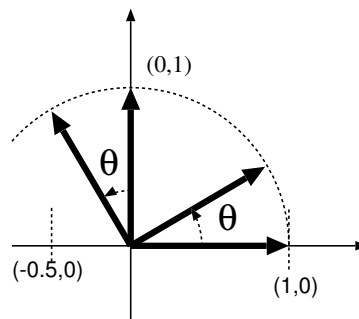
• 線分どうしのなす角が変化しない： $\cos \theta = \frac{(x, y)}{\|x\|\|y\|} = \frac{(Ax, Ay)}{\|Ax\|\|Ay\|} \implies (x, y) = (Ax, Ay)$

例： $x$ - $y$  平面で，角度  $\theta$  だけ回転する写像

変換行列が  $A = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} \sqrt{3} & -1 \\ 1 & \sqrt{3} \end{bmatrix}$  であるような，変換．これは

$$A = \begin{bmatrix} \cos 30^\circ & -\sin 30^\circ \\ \sin 30^\circ & \cos 30^\circ \end{bmatrix}$$

となっており，原点  $O$  を中心とする角  $\theta$  の回転移動を表す行列となっており，これは直交行列の例になっている．

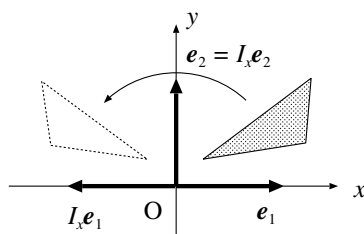


## 回転と鏡映

鏡映によって，図形の形は変わらないが，向きが反転，裏返しになる．

例 1.  $x$ - $y$  平面で， $y$  軸に関して対称に折り返す写像  $I_x$

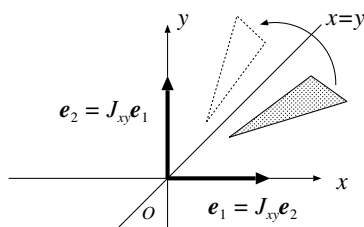
$$I_x = \begin{bmatrix} -1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$$



例 2.

$x$ - $y$  平面で， $x$  軸を  $y$  軸に， $y$  軸を  $x$  軸にする写像．

$$J_{xy} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}$$



一般（広義）の回転：回転と鏡映をいくつか合成したもの

一般の回転は，任意の図形をそれと合同な図形に写像する．

⇒ 線分の長さや，線分どうしのなす角はこの写像によって変化しない．

- 線分の長さが変化しない： $\|Ax\| = \|x\|$

- 線分どうしのなす角が変化しない： $\cos \theta = \frac{(x, y)}{\|x\| \|y\|} = \frac{(Ax, Ay)}{\|Ax\| \|Ay\|} \implies (x, y) = (Ax, Ay)$

$(x, y) = (Ax, Ay)$  が任意の  $x, y$  で成り立てば， $y = x$  を代入すると， $(x, x) = (Ax, Ax) = \|x\|^2 = \|Ax\|^2$  で  $\|Ax\| = \|x\|$  が言える．

定理：直交行列

正方行列  $U$  が直交行列であることは、次のように表すことができ、それらはどれも同値である。

1. 行列  $U$  は一般の回転を表し、図形を合同な図形に写像し、線分の長さもなす角度も変えない。  $\implies$  行列式  $|U| = 1$  (この変換によって対応する領域の面積/体積が変化しない)
2. 任意の列ベクトル  $x, y$  に対し  $(x, y) = (Ux, Uy)$  (内積の保存)
3. 任意の列ベクトル  $x, y$  に対し  $\|x\| = \sqrt{(x, x)} = \|Ux\|$  (大きさの保存)
4. 行列  $U$  の各列の要素を成分とする  $n$  個の列ベクトルはすべて長さ 1 で、たがいに直交する。すなわち  $(u_i, u_j) = \delta_{ij}$
5.  $U^T U = U U^T = E$

$$U^T U = \begin{bmatrix} \mathbf{u}_1^T \\ \mathbf{u}_2^T \\ \dots \\ \mathbf{u}_n^T \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \mathbf{u}_1 & \mathbf{u}_2 & \dots & \mathbf{u}_n \end{bmatrix}$$

例：  $U = \begin{pmatrix} \mathbf{u}_1 & \mathbf{u}_2 \end{pmatrix}$  の場合、内積が  $(\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2) = 0$  となり、大きさ  $\|\mathbf{u}_1\| = \|\mathbf{u}_2\| = 1$  .

6.  $U^T = U^{-1} \implies$  逆行列を計算する手間が省ける

この直交行列による線形変換を、直交変換という

直交という名前の由来：行列を列の並びとみなしたとき、それがすべて直交しているから。

例：

原点  $O$  を中心とする角  $\theta = 30^\circ$  の回転移動を表す行列  $U = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} \sqrt{3} & -1 \\ 1 & \sqrt{3} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos 30^\circ & -\sin 30^\circ \\ \sin 30^\circ & \cos 30^\circ \end{bmatrix}$

は直交行列になっており、上の性質をすべて満たしている。

$U^T$  は原点  $O$  を中心とする角  $\theta = -30^\circ$  の回転移動を表す行列

$$U^T = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} \sqrt{3} & 1 \\ -1 & \sqrt{3} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos 30^\circ & \sin 30^\circ \\ -\sin 30^\circ & \cos 30^\circ \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos -30^\circ & -\sin -30^\circ \\ \sin -30^\circ & \cos -30^\circ \end{bmatrix}$$

となっており、 $U U^T = E$  となるのも直観的に理解できる。

固有値・固有ベクトル

それぞれの正方行列  $A$  には、ある特別なベクトル(固有ベクトル)が存在する。

通常  $n \times n$  行列には  $n$  個の固有ベクトルが存在する。

行列  $A$  が与えられると、固有ベクトル  $x_A$  が計算できる。

$$Ax_A = \lambda_A x_A$$

$\lambda_A$  のことを行列  $A$  の固有ベクトル  $x_A$  に対する固有値といい、一般には複素数の値をとる。

うれしいこと：左辺は(行列)  $\times$  ベクトル。右辺は定数  $\times$  ベクトル。計算の手間が全然違う。